

**製品名: CD209 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81983**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	45.8kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CD209
別名	CDSIGN; CLEC4L; DC-SIGN; DC-SIGN1
遺伝子 ID	30835.0
SwissProt ID	Q9NNX6
免疫原	大腸菌で発現したヒト CD209 (AA: 余分な 270-404) の精製された組み換え断片。

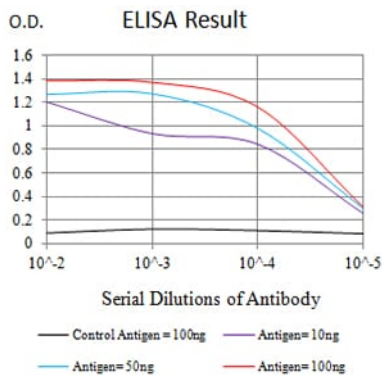
**背景**

この遺伝子は膜貫通受容体をコードしており、樹状細胞およびマクロファージの表面に発現することから、しばしば DC-SIGN と呼ばれます。コードされているタンパク質は自然免疫系に関与し、寄生虫からウイルスに至るまで、進化的に多様な多数の病原体を認識

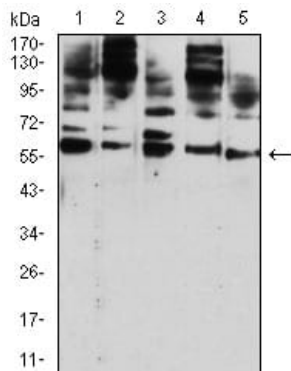
し、公衆衛生に大きな影響を与えます。このタンパク質は、N末端膜貫通ドメイン、タンデムリピートネックドメイン、およびC型レクチン糖鎖認識ドメインという3つの異なるドメインで構成されています。C型レクチンドメインとネックドメインからなる細胞外領域は、微生物および内因性細胞の表面上の糖鎖リガンドに結合することで、病原体認識受容体と細胞接着受容体という二重の機能を果たします。ネック領域はホモオリゴマー形成に重要であり、受容体が多価リガンドに高い結合力で結合することを可能にします。このタンパク質のネックドメインにおける23アミノ酸のリピート数の変動はまれですが、リガンド結合能に大きな影響を与えます。この遺伝子は、配列と機能の両面において、隣接する遺伝子（GeneID 10332、L-SIGNと呼ばれることが多い）と密接に関連しています。DC-SIGNとL-SIGNは、リガンド結合特性と分布が異なります。選択的スプライシングにより、複数のバリエーションが生じます。

## 研究分野

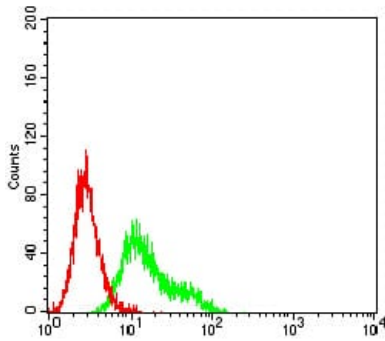
## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CD209 マウス mAb を用いた Hela (1) 、U937 (2) 、THP-1 (3) 、HL-60 (4) 、および A431 (5) 細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



CD209 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Ramos 細胞のフローサイトメトリー分析。